

平成28年度

事業計画書

平成28年3月

学校法人 藤村学園

東京女子体育大学

東京女子体育短期大学

目 次

平成28年度事業計画	1
I 法人の運営	2
II 大学・短期大学の運営	5
III 事業の内容	6
1 重点事業の概要	6
2 所管別事業計画	
○教育改革推進関係事業	11
○事務局関係事業	11
○教務関係事業	12
○学生支援関係事業	13
○キャリア支援・就職対策関係事業	14
○学生募集・入学選考関係事業	15
○学生・教職員の健康管理関係事業	16
○教育・研究支援関係事業	17
○地域との交流関係事業	17
○図書館の運営関係事業	18
○施設の整備	19
別紙1 学園組織図	21
別紙2 平成28年度行事予定表	23

平成 28 年度事業計画

大学を取り巻く環境は、少子化等の影響により、一段と厳しさを増しており、18 歳人口は、平成 27 年度の 120 万人から平成 36 年には 106 万人に減少することが見込まれています。

しかし、大学における私立の割合は、77.5%、短大においては、94.8%を占めており、それぞれが建学の精神に基づく個性豊かな活動を積極的に展開しています。

本学においては、藤村トヨの建学の精神「心身ともに健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の育成」に基づいて、新たな「知」の創造と活用を通じて、社会や人類の発展に貢献する人材を育成する大学を目指しています。

高度なスポーツ科学や健康科学に関する研究を進め、その理論に裏づけられた実践教育を広く展開することによって、責任を果たしています。

この考えに基づき、教員養成機関として、これまでの成果を検証しつつ、社会の要請に応え、教育の情熱とより高度な専門知識・技能を保有する実践的な指導者を育成していきます。

その使命である教育・研究活動の一層の充実・向上に向けて、弛まぬ努力と創意工夫が求められ、本学においては、教育内容の改善・充実を最重要課題としています。

教育・研究活動を継続していくための経営基盤の安定性の確保と財政収支の均衡を前提に財務計画を推進していきます。

学生及び保護者の信頼を高める教育内容の充実に一層努め、建学の精神に基づき、より魅力ある大学を目指すための改革を進めていきます。

平成 28 年度は、引き続き教育内容の充実に取り組みながら、本学の魅力を発信する広報活動や将来像としての今後のあり方を検討し、競争的な環境のなかで、存続し発展していくための実効ある計画を策定し全学一体となった取り組みを行っていきます。

I 法人の運営

1 理事会等の開催

- (1) 常任理事会 (理事 5人 週1回程度随時開催)
- (2) 理事会 (理事 9人 毎月1回開催)
- (3) 評議員会 (評議員 19人 年3回程度開催)

2 学園組織図 別紙1のとおり

3 役員・評議員・教職員

(1) 役員

① 理事 9人 ② 監事 2人

(2) 評議員 19人

(3) 教職員数

① 教育職員 56人 ② 事務職員 54人

【教職員構成】

(単位:人)

教育職員		事務職員				非常勤講師
学長	1	局長	1	寮生指導員	2	31
教授	30	次長		嘱託員	4	
准教授	11	課長・主幹	14	教務補佐員	9	
講師	14	課長代理				
助教		係長	7			
		主査	2	計 ②	54	
計 ①	56	課員	15	総計①+②	110	

4 設置する学校・学部・学科等

理事長 雨宮 忠

(1) 東京女子体育大学

体育学部・体育学科

学長 浅見 美弥子

(2) 東京女子体育短期大学

保健体育学科

児童教育学科

学長 浅見 美弥子

【第三者評価機関別認証評価】

大学	平成20年3月19日認証	財団法人 日本高等教育評価機構
	平成27年3月10日認証	公益財団法人 日本高等教育評価機構
短期大学	平成19年3月22日認証	財団法人 短期大学基準協会
	平成26年3月13日認証	一般財団法人 短期大学基準協会

5 学部・学科の入学定員

【平成 28 年度学部学科の入学定員及び収容定員】

(単位:人)

		大 学 体育学部 体育学科	短 期 大 学			総 計
			保健体 育学科	児童教 育学科	短大計	
入学 定員	入 学 定 員	340	80	80	160	500
	3 年次編入学定員	40				40
収 容 定 員		1,320	160	160	320	1,640

※平成 28 年 4 月 1 日大学入学定員・収容定員変更

6 教育研究上の基本となる組織

大学等	学部	学科	コース
東京女子体育大学	体育学部	体育学科	○平成 24 年度改定カリキュラム 専門技能・指導力向上 教師力強化 地域スポーツ 野外スポーツ ダンス・表現 健康スポーツ科学 ○平成 27 年度改定カリキュラム コーチング学 体育学 スポーツ健康学
東京女子体育短期大学	保健体育学科		
	児童教育学科		

7 授業料等学納金

(単位:円)

	項 目	大 学 体育学科	短 期 大 学	
			保健体育学科	児童教育学科
入学時 納入	入 学 金	300,000	210,000	210,000
	授 業 料(前期)	360,000	335,000	335,000
	施設設備費(前期)	135,000	120,000	120,000
	計	795,000	665,000	665,000
後期 納入	授 業 料(後期)	360,000	335,000	335,000
	施設設備費(後期)	135,000	120,000	120,000
	計	495,000	455,000	455,000
合 計 (年額)		1,290,000	1,120,000	1,120,000

※平成 28 年 4 月 1 日授業料等改定

8 教育施設

(1) 校地等 47,657 m²

(2) 校舎等 34,073 m²

(3) 使用目的別校舎等

1号館 管理棟

2号館 講義室、マルチメディアルーム、ゼミ室、研究室、女子体育研究所

3号館 藤村総合教育センター、地域交流センター、110周年記念藤村学園資料室

4号館 講義室、武道場、キャリア支援室、ゼミ室、研究室、健康管理センター、会議室
メディアホール、屋上多目的運動スペース

5号館 第一体育館

6号館 食堂、合宿室

7号館 第二、第三体育館

8号館 合宿室

9号館 第五体育館、プール

10号館 第六体育館、図書館、多目的室

11号館 第七体育館

12号館 事務室、会議室

クラブハウス

(※学生寮(ふじ寮) 東京都国立市青柳)

II 大学・短期大学の運営

1 教授会の開催

- (1) 定例教授会(月1回、原則として第一水曜日開催)
- (2) 臨時教授会(年7回程度開催)
- (3) 部館所長会(月1回定例、原則として第一水曜日開催、臨時開催随時)

2 部館所長

(平成28年4月1日)

部・館・室長名	氏名
教務部長	渡辺 博之 教授
学生部長	長谷川 洋子 教授
キャリア支援部長	奥野 知加 教授
入試部長	柳田 憲一 教授
広報部長	美谷島 正義 教授
図書館長	阿江 美恵子 教授
女子体育研究所長	掛水 通子 教授
健康管理センター所長	山田 浩二郎 教授
地域交流センター所長	秋山 エリカ 教授

※ 任期は、平成27年4月1日から29年3月31日〔2年間〕

3 平成28年度 行事予定表

別紙2のとおり

4 学生数

【大学及び短期大学の在学生数(平成28年3月1日)】

(単位:人)

学年	大学 体育学部 体育学科	短期大学			総計
		保健体育学科	児童教育学科	計	
1	381(1)	60 (0)	80 (0)	140 (0)	521 (1)
2	384 (2)	66 (0)	94 (0)	160 (0)	544 (2)
3	392 (3)	/	/	/	392 (3)
4	384 (6)				384 (6)
計	1,541 (12)	126 (0)	174 (0)	300 (0)	1,841 (12)

()は、休学者数で内数

Ⅲ 事業の内容

本年度の事業計画は、重点事業として、「中長期計画」「教育内容等の改善充実」「研究活動の促進」「学生支援の改善充実」「キャリア支援の充実」「広報活動の充実」「地域交流事業の充実」「教育環境の整備充実」の8事業を掲げ、大学教育の質の向上を図るための計画実施に必要な経費を措置していきます。

1 重点事業の概要

(1)中長期計画

①中期計画の策定及び実施

平成 32(2020)年開催の東京オリンピック・パラリンピックや、平成 34(2022)年には創立 120 周年を迎えることを踏まえ、寄付金募集や新校地取得に伴うキャンパス構想計画と併せ将来にわたって安定的に教育・研究を推進し、経営の健全化を図るため、次の 4 つの基本方針を柱とした中期財務推計(平成 28 年度から平成 32 年度)を策定する。

本学の強みを全面に出す戦略的広報活動を展開し、奨学金等を充実させ学生の修学環境を整備することで学生数を安定的に確保する。また、事業活動収支差額は常に収入超過を目指す。

[基本方針]

○教育改革を計画的に推進する

カリキュラム改革等の教学改革を計画的に推進する。

2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、藤村トヨの建学の精神に基づく女子体育指導者の養成及びアスリートの育成を図る。

○学生数の増加を図る

教育内容・方法の改善充実、キャリア支援の強化、クラブ活動の強化を図り、本学の強みを踏まえた戦略的広報活動を展開し、本学への受験者数・入学者数の増加を図るとともに、きめ細かな学生への対応により、中途退学者数の減少を図る。

○教育職員採用試験合格者及び採用者の増加を図る

教員採用受験講座や企画講座の充実を図り、採用試験合格者、採用者を増やす対策を推進する。

○経費の削減を図る

事業の必要性及び費用の妥当性を検証するほか、一般的経費については削減目標を設定し、継続して削減する。

②長期構想計画の策定

長期構想委員会において、全学的な取り組みとして、将来計画等基本戦略及び中長期構想の具体策(大学院の設置等)を検討していく。

③寄付金募集

平成 34 年(2022 年)に創立 120 周年を迎えることを機に、初めての取り組みとして①教育研究環境の整備②財政基盤の確保を目的に積極的な募金活動を行う。

寄付金管理システムを構築し、寄付金の受付・実績管理等の合理化を図る。

④学園資料の整理・保存

創立 100 周年記念事業において収集した写真資料を整理し、データ入力・アルバム作成・デジタル化を行う。今後も、学内各部署から写真を収集し、データ入力等を行い、学園資料を

整備していく。図書館地下の藤村学園貴重書室の環境を改善し、より良好な状態での保存に努める。

(2)教育内容等の改善充実

①本学の今後の在り方を踏まえた教育の質保証

大学・短期大学の教育の質を高め、有意義な学生生活を保障するため教育・研究に関わる様々な改革・改善に取り組む。

②平成 27 年度新カリキュラムへの対応

大学3年次に平成 27 年度新カリキュラムに基づく授業科目の新設等を行う。また、平成 24 年度旧カリキュラムが適用される平成 24～26 年度入学生の資格取得や卒業に必要な授業科目の運用を適切に行いながら、新カリキュラムへの円滑な移行を図る。

③FD活動の充実

本学の教育・研究の改善・充実を図るため組織的な取り組みを行う。

FD委員会を中心にFD研修の実施、学生による授業評価の活用等により、教員の教育意識や指導技術を高め、授業内容の改善・充実に資する。

(3)研究活動の促進

①女子体育研究所における研究の充実

研究機能の充実に努め、研究関連情報の収集・提供及び補助金申請支援等研究活動の充実に図る。

健康・体力に関する研究の一環としての体力テストを、学生主動での測定実習として行う。その結果を分析評価し、学年・学科・種目別平均値等の体力プロフィールを作成し、継続資料として蓄積する。また、児童教育学科の学生に対しては、文部科学省の新体力テスト実施要項に基づく測定項目に追加項目を加え、調査依頼にも対応する。

②研究活動の活性化

研究者情報(業績)の一元化及び教員の事務的業務の効率化に寄与する研究者情報管理システムを引き続き活用し、研究活動を実質的に支援する。

研究活動を広く発表する場として紀要を発行し、他大学等の図書館へ配布するほか、国立情報学研究所のネットワーク(CiNii)で発表する。なお、紀要には研究論文の他に、教員の当該年の研究活動報告を掲載する。

従来の個人研究に対する補助に加え、教員が研究内容の充実に図り、その研究成果を当大学や学会等の紀要や研究誌に発表することを奨励するため、「奨励個人研究」を設ける。

(4)学生支援の改善充実

①運動部活動の強化・充実

本学の専門性を支える運動部活動を強化し、学内の活性化及び社会的知名度を高めることに貢献する。

競技スポーツ系クラブから大学指定クラブを選抜し、計画的に強化を図る。指定クラブの選抜及び強化策については、競技力向上委員会にスポーツに関する専門委員会としての機能を持たせるとともに、スポーツの専門的知見を必要とする事案の審議も依頼する。

②学生生活支援

入学直後のフレッシュウィークでの集中指導や学生相談箱の設置、クラス・ゼミ担任及びクラブ部長等の学生相談やオフィスアワー等を通じ、学生生活全般の支援を行う。

③奨学金の給付

本学独自の奨学金制度として、藤村学園育英奨学金、スポーツ奨学金及びスポーツ特別奨学金の給付を行い、勉学やクラブ活動を奨励する。

○藤村学園育英奨学金

スポーツ、勉学(教育活動)、その他芸術・文化的活動の分野において優れた資質、素質を有し、着実に実績を積んでいる将来有為な学生で、修学を継続するために経済的援助を必要とする者に対し学資を支援し、もって本学が期待する優れた人材の育成に資する。

○スポーツ奨学金

国際競技大会や全国規模の大会で優秀な競技成績を上げたスポーツ系クラブの選手を表彰するとともに奨学金を授与し、競技活動を奨励・支援する。

○スポーツ特別奨学金

本学の建学の精神及び教育理念に沿って本学の社会的地位の基盤に貢献し、かつ高度な実践的研究に資する素材としての優秀な技能を有する学生を支援する。

④新教学システムの充実

学生が履修登録した内容や成績など自分の学習情報を Web サイトで常時閲覧できる環境が整った。今後、利便性を高め、一層の利用促進を図る。

⑤教師力養成講座

教員志望者に対して、将来、教員として職責を全うしていくために必要な資質と能力の基盤を形成していくことを主たる目的とした講座を開講する。教員採用試験対策に終始せず、教員としての力量を高める基礎づくりに主眼を置いて事業を展開していく。

(5)キャリア支援の充実

①キャリア形成支援

学生が生涯にわたって正しい職業観・勤労意欲を身に付け、自分に適した職業を見つける能力を養い、自主的・積極的に就職活動を進められるように、入学時から体系的・計画的な支援、指導を行う。

必修科目「キャリアデザイン」はこれからのキャリア形成を考えていくための授業であり、学生のキャリア形成の充実を図る。

就業体験をすることにより、学生の就業意識の啓発を図り主体的な職業選択能力を養うため、インターンシップを実施する。

②就職活動支援

就職推進懇談会や企業への訪問を行い、学生の就職実現のための情報収集、意見交換及び幼稚園・体育施設・企業関係者への積極的な働きかけを行う。

学生の基礎的就職力を養成し、レベルアップを図るため、就職対策講座等を実施し、就職活動を支援する。

後援会支部懇談会に出席し、就職に関する情報を提供するとともに、本学独自のリーフレット(保護者向け)を作成し、保護者の理解と協力を得る。

③資格取得支援

就職に有利となる資格取得の助言・指導を行い、学生のキャリアアップを図る。

○各種資格取得支援：健康運動指導士、健康運動実践指導者等実用的な資格取得のための対策講座を開講する。

○保育士資格取得支援：幼保一体化の社会的要請に応える学生を育成するとともに、短期大学児童教育学科生等の就職機会の拡充を図るため、保育士資格取得試験受験のための支援を行う。

○社会体育施設実習：社会体育指導者としての資質を養い、社会体育施設への就職機会を広めるとともにジュニアスポーツ指導員資格取得を目指すため、社会体育施設での実習を行う。

(6)広報活動の充実

①広報が担う大学存在価値の訴求

「大学存在価値」を全国的に浸透させる活動が戦略的學生募集の基盤であり、その継続的な基盤整備が2025年問題に向けた喫緊の課題である。

「一生ものの、姿勢をつくる」という広報基本コンセプトのさらなる確立を目指し、「情報発信力」を強化する。現在、大学ブランドを全国に訴求する導線としてのツールの充実及びあらゆるメディアの訴求力を最大限に利用し、活用できる広報活動の強化が一層必要であり、さらに人的ネットワークを構築し活用できる能力が今後の広報活動に求められている。広報活動の継続的な発展充実が28年度以降の中期的構想における目標達成に不可欠である。

本学のブランディング戦略及び独自の広報活動を立案実施し、大学ブランドを全国に訴求する。

②戦略的學生募集広報

本学への初期接触者を増加させ、志願に結びつけるため、基本コンセプトの設計並びに目標規模を設定する。その実現のために、本学の本質的魅力を発掘し、広告・情報誌・情報サイト等により認知度を引き上げるとともに、大学要覧・ホームページの更なる充実を図り、オープンキャンパスの質的改善に着手する。

また、一般入学試験受験者数の増加を目的としたDM、ウェブサイトからメッセージ発信の積極的投入及び藤栄会や卒業生教員のネットワークを構築し、地方の優秀な人材発掘を目的としたミニオープンキャンパスを充実させる。

③進路アドバイザーによる學生募集広報の発展

訪問実績を踏まえ、戦略的學生募集広報をさらに充実させる。特に関東エリアでは新規校への広報活動の展開、また地方の才能ある人材獲得のために、ミニオープンキャンパスも活用し、各地域の卒業生とのネットワークを構築するとともに、全国規模の能動的な募集活動を継続する。

(7)地域交流事業の充実

①公開講座

本学の教育・研究の成果を地域に開放し、生涯学習の場を提供する公開講座を拡充し、本学と地域社会との交流を図る。

対象を幼児から成人・高齢者までの5区分で実施する。

幼児・小学生講座は、総合的な動きづくりとスポーツの楽しさに重点を置き、発育発達期に応じた講座の充実を図る。また、文化や科学のこころを育てる講座も開講する。

高校生講座は本学の教育の魅力をアピールする機会でもあるため引き続き実施する。

成人・高齢者講座は、スポーツを医・科学や運動学から捉え、健康づくりや生涯スポーツを楽しむ講座の充実を図る。

②定期レッスン

近隣の子どものスポーツ振興と地域交流の促進を図るとともに、本学学生の指導法の実践学習に資することを目的とし、定期的に有料講座を開講する。

③ジュニア・ユースクラブ

近隣の子どものスポーツ振興と地域交流の促進を図るとともに、本学学生の指導法の実践学習に資することを目的とし、会員制のジュニア・ユースクラブを実施する。

3種目(新体操、ヒップホップ、サッカー)すべてにおいて、さらに地域に根付いたクラブを目指し、地域の催しに積極的に参加、大学生との交流の場も広げ、会員の安定化と活動内容の更なる充実を図る。

④ジュニア・ユースクラブ強化推進<新規>

新体操クラブでは、2020東京オリンピックを見据え、会員の競技力強化・育成を行う。

強化内容として、外国人特別講師を招聘し、最先端の指導を受け、さらなる技術力向上を図る。その他、国内競技会、強化合宿等にも積極的に参加し、スポーツを通してより豊かな人間性を育む本学独自の取り組みを行う。

(8)教育環境の整備充実

①4種公認陸上競技場施設改修工事<新規>

平成27年11月に期限となった4種公認陸上競技場について、新規公認として必要な施設改修等の整備を図る。トラックの内勾配、電子計時、ハードル、棒高跳び用マット、砲丸投げ用防護網、審判台の増設等施設設備の充実強化により、体育大学により相応しい水準の陸上競技場として整備する。

②体育館等空調設備新設工事<新規>

平成27年度工事に引き続き、第3体育館、第5体育館及び第6体育館について、安全かつ快適な教育環境の整備を図るため、適切な冷暖房用の空調設備の設置工事を実施する。

③第7体育館北側用地整備工事<新規>

新たに購入した第7体育館北側の隣接用地を、平成28年7月から平成29年1月に実施する第4種公認陸上競技場の改修工事に伴い、代替用地として活用を図るための整備工事を実施する。

④図書館開館時間の延長

学生の学習時間の確保等に対応するため、授業期間中の平日及び土曜日に図書館の開館時間を延長してきた。平成28年度から試験、卒業研究期間中の開館時間を更に延長し、学生の利用に供する。

⑤図書館情報機器の更新<新規>

情報機器を利用する学生の利便性を高めるため、情報館データサーバ及び事務用コンピュータを更新する。

2 所管別事業

○教育改革推進関係事業【総務課】

(1)学生による授業評価の実施

教員の教育意識や指導技術を高め、学生の視点に立った授業内容の改善に資するため、大学(体育学部体育学科)、短期大学(保健体育学科、児童教育学科)において、全科目、全クラスを対象に学生へのアンケート調査を実施する。

実施時期 前期授業 6月下旬～7月 後期授業 11月下旬～2月中旬

学外・集中授業 8月～9月、12月～3月上旬

科目数 約 350 科目 授業数 約 680 クラス 履修者数 延べ 4 万 5 千人

自己点検評価の一環として実施しており、調査結果を各担当教員へ通知する。各教員が調査結果を分析し、改善策等についてコメントしたものを報告書としてまとめ、学生の閲覧に供し教育の質を向上させる。

(2)自己点検評価報告

教育実践の一層の改善・充実を図るため、教育・研究活動の現状について自己点検評価を行う。

平成 28 年度は、平成 27 年度の点検を行い、「点検報告」としてまとめ、ホームページに掲載する。

(3)FD活動の推進

授業内容の改善・充実を図るための組織的な活動を推進する。FD委員会を中心にFD研修の実施、学生による授業評価の実施とその活用策等を検討する。

(4)ティーチングポートフォリオの作成

年度ごとのシラバス、授業評価結果等を教員ごとに管理・保管し、継続的な教育改善に資する。

○事務局関係事業【総務課・経理課】

(1)2020 東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト

2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、昨年度立ち上げたプロジェクト本部及び専門委員会を中心に本学の資源を生かした方策を検討するとともに講座等を実施する。

(2)寄付金募集

教育研究に要する経費、奨学金支給を含む多様な学生生活動への支援経費及び校舎その他付属設備の取得・改修費に係る資金調達のために積極的な募金活動を行う。

寄付金管理システムを構築し、寄付金の受付・実績管理等の合理化を図る。

(3)事務職員研修(SD研修)

事務職員の能力向上のため、SD推進プロジェクトチーム(SD推進PT)を中心に学内研修会の開催等、組織的に対応する。

(4)「学園報」の発行

学園の基本情報を学内・学外に広く提供・周知するため「学園報」を定期的に発行する。

(5)国際試合等海外遠征補助

①在学生在が国際競技大会に日本代表として出場した時、または国際親善を目的とした国際交流試合等への出場のため海外遠征した時に補助金を交付する。

②卒業生がオリンピック・ユニバーシアード大会などに出場した時、激励金を交付する。

○教務関係事業

【教務部教務課】

(1)履修指導の充実

学部、学科のカリキュラムを基に、学生一人ひとりの能力・適性、興味・関心に応えられる多様な教育メニューを整え、充実した学習ができるよう履修指導等を充実し、支援していく。

また、履修登録、成績管理、卒業認定単位の確認、休講・補講・教室変更等の情報など、学生情報に関する新教学システム「UNIVERSAL PASSPORT」の充実・強化を図り、学生及び教職員に対して教学事務の利便性の向上を図っていく。

(2)学外実習・演習

夏季学外講座 10 科目 冬季学外講座 8 科目

(3)創作オペレッタ発表会

短期大学児童教育学科 2 年生全員の参加により、カリキュラム授業の中で創作劇の脚本、演出、音楽、出演など学生自身で行う創作オペレッタ発表会を開催する。

(4)導入教育の実施

ア) 「藤村トヨの教育」(講義・演習 1 単位) 「国語基礎講座」(講義 2 単位)

新入学生対象 / 大学・短期大学

イ) フレッシュマンセミナー

保健体育学科 1 年対象 / 水泳(含海浜実習)

児童教育学科 1 年対象 / 野外活動(含水泳)

ウ) 音楽基礎理論補充講座 児童教育学科 1 年対象

(5)キャリア教育の実施

「キャリアデザイン」(講義・演習 1 単位) 新入学生対象 / 大学・短期大学

(6)履修形態の多様化

ア) 科目等履修生の受け入れ(大学・短期大学)

イ) 他学科履修制度 (短期大学児童教育学科・10 単位以内)

ウ) 授業ユニット運営

(短期大学児童教育学科・幼・保ユニット/こどもユニット/児童スポーツユニット)

(7)授業運営の充実・効率化

ア) スチューデントアシスタントの活用

イ) 出席管理システムの活用

(8)聴覚に障がいのある学生への支援

ア) ノートテーカーの配置

イ) ノートテーカー養成講座の開講

(9)高大連携

藤村女子高等学校との高大連携協定に基づき、希望する高校生に大学レベルの授業に触れさせることにより、大学進学の意味等を理解させ、適切な進路指導を支援する。

【教務部教職課】

(1)教育実習の実施

大学体育学部体育学科 4年	330人
短期大学保健体育学科 2年	30人
短期大学児童教育学科 2年	88人 (科目等履修生を含む)

(2)介護等体験実習の実施

大学体育学部体育学科 2年	380人
短期大学保健体育学科 1年	50人
短期大学児童教育学科 1年	50人

(3)教員免許状更新講習の実施

教員免許法の改正により、平成 21 年度以降に交付される教員免許状には、10 年間の有効期限が付されることとなった。これを受けて、既に免許状を保有している現職教員を対象に、教員としての最新の知識技能を身につけるため、10年に1回の更新講習を受講することとなっている。

本学は、昨年度に続き文部科学大臣の認定を受け、同講習会を開講する。

○ 講習の内容及び講習時間

①【必修領域講習】全ての受講者が受講する領域(6時間)

国の教育施策や世界の教育の動向、教員としての子ども観、教育観等についての省察子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見、子どもの生活の変化を踏まえた課題

②【選択必修領域講習】受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は経験に応じ、選択して受講する領域(6時間)

学習指導要領の改訂の動向等法令改正及び国の審議会の状況等、進路指導及びキャリア、教育の情報化(情報通信技術を利用した指導及び情報教育(情報モラルを含む))

③【必修領域講習】教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項(18時間)

授業に活かす保健体育科教育の改善と工夫(講義・実技)

(4)教師力養成講座

教員志望者に対して、将来、教員として職責を全うしていくために必要な資質と能力の基盤を形成していくことを目標とし、教員としての力量を高める基礎づくりを行う。

○学生支援関係事業【学生部学生課】

(1)フレッシュウィークの実施

新生が大学での学習の魅力を肌で感じ、新鮮な印象と期待感を持って学園生活をスタートできるよう期間を設け、授業ガイダンス、キャリア支援、クラブ活動、学友会活動など学園生活に必要な事項のオリエンテーションを年度当初に集中的に行う。

(2)クラブ活動の充実

ア) 国際試合等海外遠征支援(補助金の支給)

イ) クラブ活動支援

運営指導必要経費(学外指導者連絡費等補助金の支給) 対象クラブ: 38クラブ

ウ) 特別学外指導者の配置 対象クラブ:5クラブ

エ) 学外指導者の配置 対象クラブ:18クラブ

ホ) 特別コーチの配置 対象クラブ: 9 クラブ

(3) 藤園祭(学園祭)の実施

11月3日(文化の日)を中心とした2日間に様々なイベントや模擬店等を学生からなる藤園祭実行委員会が企画・運営し、地域の人たちとのコミュニケーションを図る。

(4) 実践研究活動費補助

スポーツの実践知を文化として社会に浸透させるため専任実技指導教員の研究活動を支援する。

(5) 奨学金の給付

ア) 藤村学園育英奨学金

大学・短期大学在校生対象 予算額: 1,500万円(本学独自の奨学金)

イ) スポーツ奨学生

大学・短期大学在校生対象 予算額: 800万円(本学独自の奨学金)

(6) 日本学生支援機構奨学金の貸与(平成27年10月1日現在の実績)

第一種奨学金(無利子) 241人

第二種奨学金(有利子) 681人

(7) 学生相談

ア) 学生相談箱の設置

イ) 相談担当教員による相談、臨床心理士等によるカウンセリング

(8) オフィスアワーの実施

学生のより豊かな学習活動を支援するため、全教員が曜日と時間を設定し、学生の相談等に応じ、きめ細かい支援をする。

(9) 学生寮「ふじ寮」の運営

寮生数(想定) 新入生 160人、在寮生 90人 合計 250人

○キャリア支援・就職対策関係事業【キャリア支援部キャリア支援課】

(1) ガイダンス・講習等

ア) 就職・資格取得オリエンテーション〈全学生〉

フレッシュウィーク就職オリエンテーション前期1回 後期1回

キャリアガイダンス 年間40回

就職支援セミナー 後期週1回

(2) キャリア支援

ア) 教科用図書等関係印刷物の作成

就職ガイド「キャリアデザインノート」大学2年生用

就職ガイド『「なりたい!」の実現を目指して』 大学3・4年、短期大学2年

イ) キャリアカウンセリング〈全学生〉

専門のキャリアカウンセラーを配置して、学生の進路相談に応じる。

キャリアアドバイザーが応募書類の添削指導や教員をめざす学生の個人指導・アドバイスをを行う。

ウ) 卒業生も含め、個々の学生の就職相談に応じる。

エ) キャリア支援関係情報の収集・提供

(3) 就職活動支援

ア) 教員採用試験対策講座

公立学校教員採用試験直前対策講座 大学 4 年、短期大学 2 年 50 人
公立学校教員採用試験第二次試験直前対策講座 一次試験合格者

イ) 就職対策

就職対策講座Ⅰ(基礎) 大学 3・4 年、短期大学 1 年 100 人
就職対策講座Ⅱ(直前) 大学 3・4 年、短期大学 1 年 100 人
コース別講座

小・中・高教員コース	卒業年次を除く全学生対象
一般企業・体育施設コース	卒業年次を除く全学生対象
公務員コース	卒業年次を除く全学生対象

ウ) インターンシップ(大学取りまとめ型)夏季休業期間中 大学 2・3 年

(4) 各種資格取得支援

社会体育施設実習 大学 3・4 年 30 人 短期大学(保健体育学科)2 年 40 人
健康運動指導士認定試験対策講座 大学 4 年 10 人
健康運動実践指導者認定試験対策講座
大学 3・4 年 40 人 短期大学(保健体育学科)2 年 10 人
共通科目Ⅰ集中講座 短期大学(児童教育学科)1・2 年 30 人
保育士資格取得試験対策講座 短期大学(児童教育学科)2 年 15 人
日本赤十字社救急法講習会 全学年 50 人
日本赤十字社水上安全法講習会 全学年 20 人
秘書検定講座 「秘書検定 2 級」 10 月講座開講

(5) 対外活動

対外的な活動によって情報を収集し、新たな就職先を開拓する。また、後援会支部会等に参加し、就職に関する情報を提供するとともに、保護者の理解と協力を得る。

ア) 就職推進懇談会等

幼稚園長懇談会
体育施設関係、一般企業関係懇談会

イ) 訪問活動

都道府県市教育委員会
体育施設、一般企業等
後援会支部懇談会

○学生募集・入学選考関係事業【入試課・広報課】

(1) 入学選考の実施

- ア) AO 型入試(Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期)
- イ) 推薦入試(公募推薦、指定校推薦、スポーツ推薦)
- ウ) 一般入試
- エ) センター試験利用入試
- オ) 大学 3 年次編入学選考(Ⅰ期、Ⅱ期)

(2) 学生募集活動

- ア) オープンキャンパス(6回)・ミニオープンキャンパス(7会場)の実施
- イ) 高校訪問
- ウ) 進学説明会への参加(延べ80回)
- エ) スポーツ推薦の学生募集

(3) 広報活動

- ア) 高校生・他大学等対象「大学要覧」の発行 (A4版80ページ 18,000部)
- イ) 広報誌の発行

「ヘッドライン」	(在学生・保護者向け、年2回、延10,000部)
「ラブスポ」	(学外向け、保護者向け、在学生・高校生、年1回、延15,000部)
「ハンドブック」	高校生向け 年1回、10,000部

- ウ) ホームページによる入試広報
大学案内、学生募集案内、選考結果、オープンキャンパスのお知らせ、資料請求等
- エ) インターネット、携帯電話を利用した広報
- オ) 受験雑誌、新聞、広告等による広報
- カ) 指定校等向けポスターの制作・掲載
- キ) 交通広告による広報

(4) スポーツ特別奨学生の運営

Sランク 入学初年度費用相当額(入学金、授業料、施設設備費)及び次年度以降の授業料・施設設備費相当額を免除。ただし、免除期間・金額については、別に定める基準により評価し決定する。

Aランク 入学初年度費用相当額(入学金、授業料、施設設備費)及び次年度以降の施設設備費相当額を免除。ただし、次年度以降の免除については、別に定める基準により評価し決定する。

Bランク 入学初年度費用相当額(入学金、施設設備費)を免除

Cランク 入学初年度費用相当額(施設設備費)を免除

○学生・教職員の健康管理関係事業【健康管理センター】

医療法に基づく認可を受けた「診療所」として、治療処置の初期対応や迅速な措置を行うことにより学生・教職員の健康管理の充実を図る。

学生の健康診断に基づき学生一人ひとりの健康を医師が専門的に管理し、健康の保持増進に努める。

また、新型インフルエンザ等感染症は、学生をはじめ学園に関わる全ての者に注意喚起をするとともに、予防対策と発症時の対応を適宜・適切に行う。

- (1) 定期健康診断と事後措置 (学生 4月実施)
- (2) 定期健康診断と事後措置およびストレスチェックの実施 (教職員)
- (3) 医事相談(外科、内科、整形外科 他全般)
- (4) リハビリ相談(理学療法士による相談、指導)
- (5) 精神衛生相談 (臨床心理士による心理相談)

(6) 応急手当・保健指導

○教育・研究支援関係事業【女子体育研究所】

女子の体育・スポーツ・レジャー・ニュースポーツ等とこれに関連する研究調査を行い、その向上、発展に資することを目的とし、その成果を教職員・学生のみならず広く社会へ公開し、社会の発展に寄与する。

(1) 教員の個人研究・共同研究に対する補助

個人研究(本学教員) 共同研究(継続 4 件、新規 2 件予定)

(2) 研究フォーラムの開催

研究フォーラムを開催し、教員の個人研究及び共同研究の成果を本学教員と学生に発表する。

(3) 「紀要」、「所報」の発行

「紀要」は教員の研究成果を論文として発表する機会を設けるため毎年発行し、全国の大学や国会図書館・関係出版社等にも配布するとともに国立情報学研究所のネットワーク(CiNii)で発表する。(第 52 号)

「所報」は研究所の研究事業及び共同研究を研究報告として発表する場として毎年発行し、紀要同様、全国の大学等に配布すると同時にホームページ「女子体育研究所」で検索できる。(第 11 号)

(4) 研究者情報の開示(教員の研究業績の開示)

- ① 本学の研究資源として、教員の持っている知的資源、資質・能力及び本学独自の研究指導成果を広く公表する機会とする。
- ② 教員の研究領域や分野を相互に理解し、研究活動を充実させ、研究集団としての価値を高める機会とする。
- ③ ホームページ(教員情報)、researchmap(教員名又は大学名で検索)および J-GLOBAL (researchmap の教員から検索)において、本学教員の研究業績の開示を行っている。

(5) 学生に対する体力テストの実施と測定結果の活用

(大学・短期大学各 1・2 年および競技系クラブ所属 3・4 年生対象)
文部科学省及び全国大学体育連合へデータ提供する。

○地域との交流関係事業【地域交流センター】

地域社会からの要請に応じて大学の教員や学生を派遣し、地域の教育、文化、スポーツ等の活動を支援するとともに、大学主催事業である公開講座、定期レッスン、ジュニア・ユースクラブの運営・実施により、地域の発展に寄与する。

(1) 公開講座の開催

公開講座は、地域の方が自由に参加することのできる講座を無料と有料(実費徴収)で提供する。

幼児講座	3 回開講	各 20~40 人
小学生講座	6 回開講	各 15~50 人
高校生講座	5 回開講	各 50 人
成人講座	4 回開講	各 30~40 人
共通講座	4 回開講	各 30~50 人

(2)定期レッスン

定期レッスンは、専門的内容の定期講座を有料で提供する。

新体操 6回開講 各50人(小学生～高校生対象)

(3)ジュニア・ユースクラブの開催

ジュニア・ユースクラブは、会員制、通年で継続的に事業運営する。

① 新体操クラブ

一般コース	キッズ	3クラス	毎週1回 各15人
	ジュニア	7クラス	毎週1回 各15人
	ユース	1クラス	毎週1回 各15人
育成コース		4クラス	毎週1回 各15人
選手コース		2クラス	毎週4～5回 各8人

② ヒップホップクラブ

ヒップホップ	1クラス	毎週1回 20人
--------	------	----------

③ サッカークラブ

サッカー	2クラス	毎週1回 各20人
------	------	-----------

(4)ジュニア・ユースクラブの強化推進事業(新体操クラブ)

東京オリンピックを見据え、会員の競技力強化・育成を図るため、外国人特別講師の招聘を行い、国内競技会および強化合宿にも積極的に参加する。

(5)ボランティア講座の開催 (学生対象/5講座/講義・演習)

学生にボランティアの意義、理論を学ばせ、演習を通してボランティア実践の方法を学ばせる。

(6)ボランティア活動

教育、文化、スポーツ等に関する地域社会からの要請に基づき、教員、学生を派遣し、社会貢献の一環とする。

○図書館の運営関係事業【図書館】

大学附属図書館は大学における教育・研究活動を支える重要な基盤機関であり、また総合的な教養の場でもある。この目的を達成するために学生の教育・学修、教員の研究活動を支援し、図書をはじめとする雑誌、新聞、映像、電子資料、学園史資料の収集・提供・保存を行う。

(1)図書等資料の収集・整理・保存(蔵書冊数予定 195,000冊)

図書受入予定	約 4,000冊
雑誌所蔵予定	約 900種
新聞所蔵予定	約 14種
映像資料所蔵予定	約 150種
データベース予定	約 7種

(2)図書貸出冊数 年間 約 4,000冊

(3)レファレンス・サービス

(4)学外機関との相互協力

図書館間の資料の相互補完

国立情報学研究所の目録所在サービスへの図書・雑誌所蔵登録

(5)広報活動

図書館だより「リーブル」年2回発行
ホームページ(図書館ページ)の更新

(6)平成28年度図書館行事予定

ライブラリー・ツアー	調査・研究に役立てるために、図書館の資料の場所を知り、検索方法や利用法を身に付けさせる。	5、6、11月の水曜日 3、4限 (延べ12回予定)
読み聞かせの会 「絵本から広がる子育て」	絵本を入口に子どもと一緒に楽しむ。	5月第3週土曜日
図書館は楽しい —子どもと一緒に— 絵本の読み聞かせ 紙芝居 クラフトワーク他	学園祭にあわせ図書館を地域に開放して、児童教育学科の学生と子ども達との交流を図り、地域社会への貢献を行うことにより、図書館の有効な利用法の一つとする。	11月藤園祭期間 午後1～2時

○施設の整備【管財課】

(1)4種公認陸上競技場改修工事

平成27年11月30日に有効期限を迎えた4種公認陸上競技場について、平成28年7月から12月の工期により、新規公認として必要な施設改修等の整備を図る。具体的には①現状の300メートルトラックの外側勾配を内側勾配に変更し短距離走での安全性かつ快適性に配慮すること。②電子計時システムを装備して、短距離走での公認記録の充実強化を目指すこと。③既存の重量性のハードルを練習用として最新の軽量ハードルを新規装備して、バリエーションを豊かにすること。④トラックカーブ6レーンを1レーン増設しカーブ走行の強化を図ること。⑤棒高跳びマットの新規更新とともに器具等の収納倉庫を増設して器具の長寿命化を図ること。⑥ホーム走路に110メートル用の決勝審判台を増設するとともに、新たにバック走路にも決勝審判台を配備し、風向きに応じた走路選択を可能にすること。これらの改修工事により2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた準備に繋がる陸上競技関連の施設設備の充実強化を図り、体育大学により相応しい水準の陸上競技場として地域にも親しまれる整備を図っていく。

(2)体育館等空調設備新設工事

平成27年度の工事日程によりバレーボール競技やバスケットボール競技用の第1体育館、体操競技の各種目の器具を装備している第2体育館、及びハンドボール競技用の第7体育館の冷暖房設備設置工事を実施した。この設置工事に引き続き、平成28年4月から6月の工期により、新体操競技やバドミントン競技用の第3体育館、ダンス用の第5体育館及び、卓球競技やトランポリン競技用の第6体育館の冷暖房設備設置工事を実施する。

各体育館に設置する冷暖房設備の冷房能力は14～16KWとし、暖房能力は18～20KWとして、夏季の熱中症対策や冬季の厳寒対策にも効果的に機能を発揮するよう3メートル程度の高さの体育館壁面を活用して安全な固定化を図る。さらにボール競技等にも対応できるよう防球網を装備するとともに、節電対策

にも配慮し、遠隔制御方式を取り入れ無駄な冷暖房運転がないよう工夫していく。なお、各体育館の設置台数は面積や能力を踏まえ、第3体育館は7台(冷房 16KW)、第5体育館は5台(冷房 14KW)及び第6体育館は4台(冷房 16KW)を予定している。

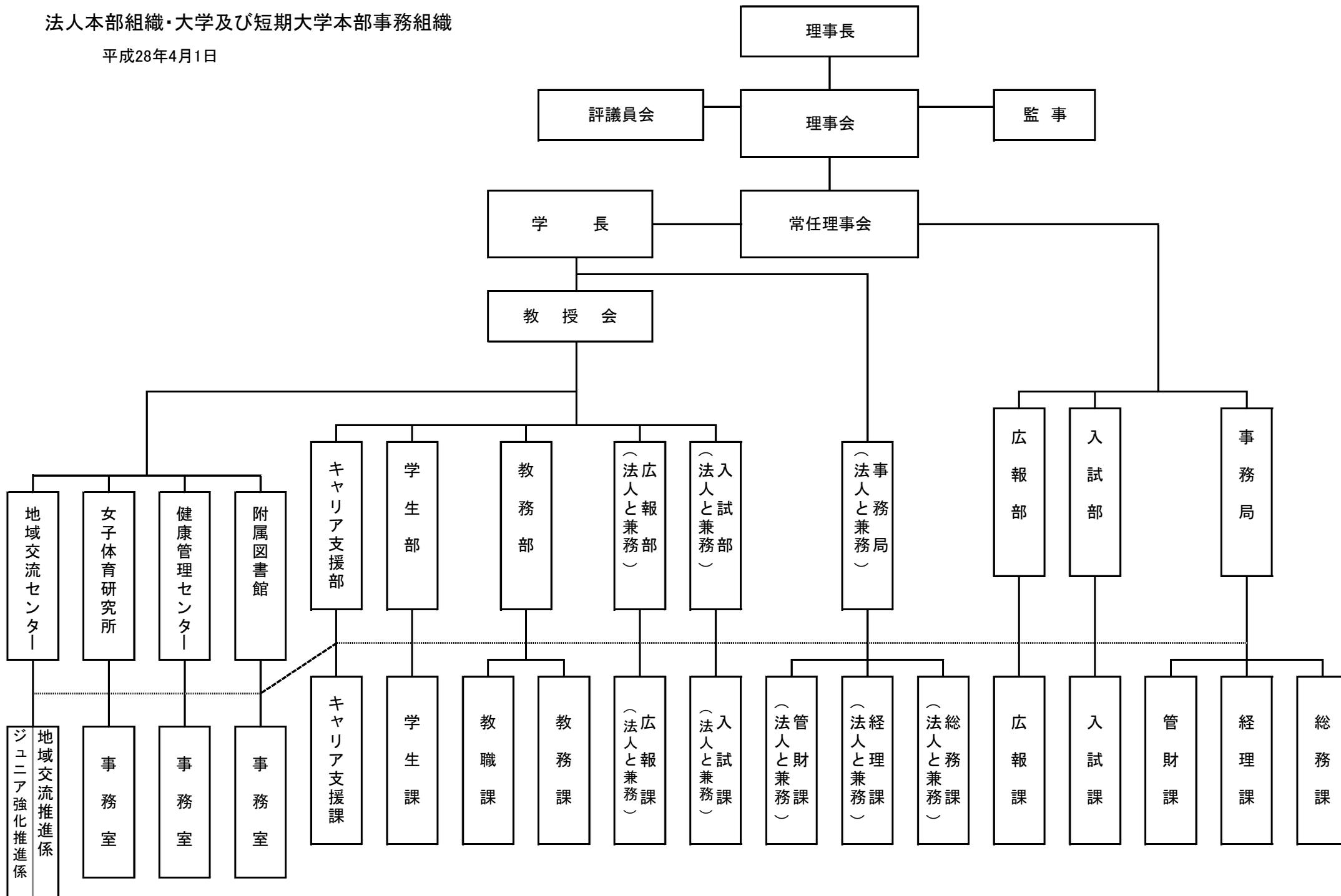
(3) 第7体育館北側用地整備工事

第7体育館の北側に隣接する約 4,800 m²の新取得地について、平成 28 年 4 月から 6 月の工期により、簡易整地し、暫定的に陸上競技場改修工事に伴う補完代替地として授業対応に備える。

新取得地の全体について、現状の路盤を整え転圧して細かな砕石を投入し平たんにする路盤工事を行う。さらに、中央の約 2,500 m²については、表面の約 5cm程度に石灰状のクレイを舗装し、運動等が可能な整地を行う。陸上競技場の改修工事の際に、授業やクラブ活動等での対応が可能なものとする。

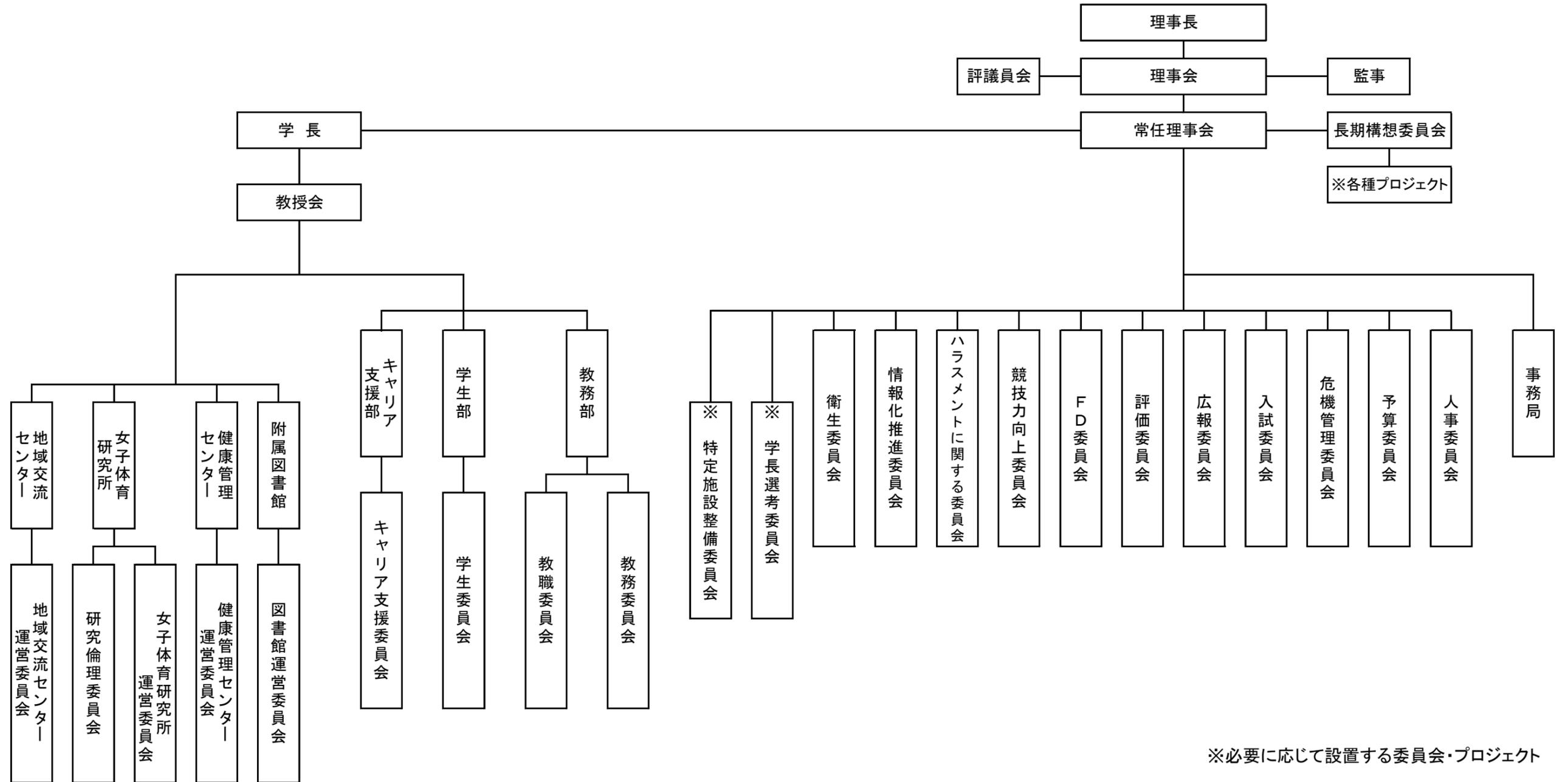
法人本部組織・大学及び短期大学本部事務組織

平成28年4月1日



法人委員会及び教学委員会組織連関図

平成28年4月1日



※必要に応じて設置する委員会・プロジェクト

平成28年度 行事予定表 (2016年度)

東京女子体育大学
東京女子体育短期大学

月日	4		5		6		7		8		9		月日	
1	金	定例教授会	⑩		水	定例教授会	1	金	月		木		1	
2	土	春季休業終了	月		木		2	土	火	夏季休業開始	金		2	
3	⑩	入学式 入寮式	⑩	憲法記念日	金		3	⑩	水	● キャンプⅠ(大2) ● キャンプ(保体)	土	● スクーバダイビングⅠ(大3) ● スクーバダイビングⅡ(大4)	3	
4	月	● フレッシュウィーク ● 学生健康診断	⑩	みどりの日	土		4	月	● 補講期間(5校時)	木	⑩		4	
5	火		⑩	こどもの日	⑩		5	火		金	月	教師力養成講座 ●	5	
6	水		金		月	● 社会体育施設実習 (大3・4・保2)	6	水	定例教授会	土	火		6	
7	木	通常授業開始 ● 授業ガイダンス(前期)	土		火		7	木		⑩	オープンキャンパス	水	定例教授会	7
8	金		⑩		水	介護等体験学外講師講話② (大2・保1・児1)	8	金		月	木		8	
9	土		月		木		9	土		火	● キャンプⅡ(大3・4)	金		9
10	⑩		火	創立記念日(授業あり)	金		10	⑩	● 水泳運動方法及び実習(大学) ● 水泳(含海浜実習)(保1)	水	土	I期AO面談①	10	
11	月		水	定例教授会	土		11	月		⑩	山の日	⑩		11
12	火		木	社会体育施設実習 学外講師講話(大3・4・保2)	⑩		12	火	就職ガイダンス (大4・保2・児2)	金	月	就職対策講座Ⅰ(基礎) ●	12	
13	水		金	介護等体験学外講師講話① (大2・保1・児1)	月		13	水		土	火	夏季休業終了	13	
14	木	履修登録締切	土		火		14	木	就職ガイダンス	⑩	水	各課オリエンテーション 学力保障 ●	14	
15	金		⑩		水		15	金	就職ガイダンス (大1・2・3・保1・児1)	月	● ウェイクボード(大4) ● 教員免許状更新講習 ●	木	各課オリエンテーション	15
16	土		月	就職ガイダンス(保2・児2)	木		16	土		火	金	● 追再試験	16	
17	⑩		火	就職ガイダンス(大4)	金		17	⑩		水	都教職員研修センターとの 連携による研修	土	I期AO面談②	17
18	月		水	介護等体験学生報告会 (大2・保1・児1)	土	オープンキャンパス	18	⑩	海の日 オープンキャンパス	木	⑩		18	
19	火		木		⑩		19	火	就職ガイダンス(児2)	金	⑩	敬老の日	19	
20	水	体力テスト(授業なし)	金		月		20	水	免許状一括申請 オリエンテーション(大4)	土	火	追再試験	20	
21	木		土		火		21	木		⑩	オープンキャンパス	水	追再試験	21
22	金		⑩		水		22	金	免許状一括申請 オリエンテーション(保2・児2)	月	⑩	秋分の日	22	
23	土		月	就職ガイダンス(保1・児1)	木		23	土		火	金	追再試験	23	
24	⑩		火	就職ガイダンス(大3)	金		24	⑩		水	土	I期AO面談③	24	
25	月		水		土		25	月		木	⑩		25	
26	火		木		⑩		26	火		金	月	通常授業開始 ● 授業ガイダンス(後期) 履修取消等受付開始	26	
27	水	教育実習学外講師講話 (大4・保2・児2)	金		月		27	水		土	火		27	
28	木	インターンシップ学生報告会・ オリエンテーション	土		火		28	木	● 前期試験	⑩	水	臨時教授会	28	
29	⑩	昭和の日	⑩		水		29	金		月	● 野外活動(児教)	木		29
30	土(水曜日の授業)		月	教育実習(大4・保2) 教育実習(児2) ●	木		30	土		火	金		30	
31			火				31	⑩		水			31	

月日	10			11			12			月日	1			2			3			月日
1	土	履修取消等締切		火	藤園祭準備(午後授業なし)		木			1	日	元日		水	一般入学選考 編入学選考(Ⅱ期)		水	定例教授会		1
2	日			水	●藤園祭		金			2	日	振替休日		木			木			2
3	月			木	Ⓟ文化の日		土			3	火			金	科目等履修生受付締切		金			3
4	火			金			日			4	水			土			土			4
5	水	定例教授会		土			月			5	木			日			日			5
6	木			日			火			6	金			月	臨時教授会 ●後期試験		月			6
7	金			月			水	定例教授会 卒業研究提出締切り		7	土	冬季休業終了		火			火			7
8	土			火			木			8	日			水	定例教授会		水			8
9	日			水	定例教授会		金			9	日	成人の日		木			木			9
10	日	体育の日		木	就職ガイダンス(大3)		土			10	火	振替休業日(11/3)		金	学力保障		金	Ⅲ期AO選考		10
11	火			金	就職ガイダンス(保1・児1)		日			11	水			土	建国記念の日		土	春季休業開始		11
12	水			土			月			12	木	●補講期間(5校時)		日			日			12
13	木			日			火	就職ガイダンス (大4・保2・児2)		13	金			月			月	臨時教授会		13
14	金			月			水	卒業研究発表会 (午後授業なし)		14	土	センター試験 補講		火	創作オペレッタ発表会 (児教) ●追再試験		火			14
15	土	オープンキャンパス		火			木	就職活動学生報告会 (大3・保1・児1)		15	日	センター試験		水			水			15
16	日			水	ゼミ所属オリエンテーション 運動専攻オリエンテーション		金			16	月			木			木			16
17	月			木	入試準備(授業あり)		土			17	火			金			金			17
18	火			金	推薦入学選考(授業なし)		日	Ⅱ期AO選考		18	水	定例教授会 介護等体験説明会(大1) 科目等履修生出願説明会		土	●スノーボードⅠ(大3)Ⅱ(大4) スノーボード(保1)		土	卒業生ガイダンス		18
19	水	編入学選考(Ⅰ期) 教育実習学生報告会 (大3・保1・児1)		土			月	社会体育施設実習 学生報告会(大2・3・保1)		19	木	就職ガイダンス (大1・2・3・保1・児1) 科目等履修生出願受付開始		日			日			19
20	木			日			火			20	金			月			日	卒業式 春分の日		20
21	金	臨時教授会		月	臨時教授会		水	臨時教授会		21	土			火			火	振替休業日(3/20)		21
22	土			火	(水曜日の授業)		木	冬季休業開始 ●スケートⅠ(大3) スケートⅡ(大4)		22	日			水	卒業認定会議 (教員免許状一括申請者決定)		水			22
23	日			水	Ⓟ勤労感謝の日		金	Ⓟ天皇誕生日		23	月			木	●スキーⅡ(大3・4) スキー(大2・保) 就職対策講座Ⅱ(直前)		木			23
24	月			木			土			24	火			金			金			24
25	火			金			日			25	水	研究フォーラム		土			土	オープンキャンパス		25
26	水			土			月			26	木			日			日			26
27	木			日			火			27	金			月	●教師力養成講座		月			27
28	金			月			水			28	土			火			火			28
29	土			火			木			29	日						水			29
30	日			水			金			30	月						木			30
31	月						土			31	火	入試準備(授業あり)					金			31